

まもる通信



活力ある地域社会と人のふれあい
ともにいっしょに



寺田守 後援会だより

発行:寺田守後援会
会長 鈴木昌二
袋井市久能1810-11
TEL: (44) 1351

✉ mamorut@yr.tnc.ne.jp

vol.8
2011.春



市議会報告

2月定例議会が、2月22日から3月22日の会期で開催されました。今議会の主な審議は、平成23年度予算で、一般会計予算1議案、特別会計予算8議案、事業会計予算2議案が提出されました。この他、平成22年度補正予算4議案、市条例の制定・改定12議案、市道の認定・変更2議案が審議され、合計29議案がいずれも採択されました。

議員提出議案では、「土地売買等に関する法整備」「国保の国庫負担の拡充」「子ども医療費無料制度の創設」の3つの意見書が採択されました。

市政方針の中で、平成23年度は「市民の力・地域の力が最大限発揮される市民と行政のパートナーシップによる新たなまちづくりの出發の年」としています。

↓エコパに咲く河津桜



◎平成23年度の予算規模

一般会計	293億7000万円	前年度比▲0.5%
特別会計	151億6480万円	前年度比 1.0%
企業会計	83億8840万円	前年度比 1.6%
総額	529億2320万円	前年度比 0.3%

◎平成23年度の主な事業

- 【ふくろい夢プロジェクト】…………… 2410万円
◆パートナーシップによる新たなまちづくり事業など
- 【待機児童0作戦】…………… 2億4270万円
◆愛野こども園運営、あそび学園建設補助など
- 【糖尿病予備群ゼロ作戦】…………… 970万円
◆予防事業、健康教室開催など
- 【地域を守る防災対策】…………… 3億8100万円
◆同報無線デジタル化、治水事業など
- 【企業誘致対策】…………… 470万円
◆東京事務所職員派遣事業など
- 【収納率向上作戦】…………… 2600万円
◆市税収納対策事業

【主な建設整備事業】

- 新学校給食センター整備事業…………… 5300万円
債務負担行為限度額 10億6000万円
- 袋井駅南北自由通路・橋上駅舎化事業…………… 6000万円
債務負担行為限度額 28億8690万円
- (仮称)大日ほたるの里公園整備事業…………… 1億6000万円
- (仮称)エントランス広場整備事業…………… 1億5700万円
- 山名小学校校舎増築事業…………… 4億1200万円

追加補正で木造住宅耐震補強に上乘せ

当市では昭和56年5月31日以前に建てられた木造住宅に対し、耐震補強工事を行う際の助成を行っていますが、2月補正で2800万円の追加予算を組みました。補助金額は一般90万円、高齢者110万円で補助率も各30万円ほど多くなっています。

今回の東北関東大震災を受け、市では平成23年度に入っても同額で受け付ける、と発表しています。



↑北分庁舎コスモス館の耐震補強の呼び掛け

追悼 東北関東大震災

3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震では、国内観測史上最大のM9.0を記録し、東北関東の太平洋沿岸に未曾有の大災害をもたらしました。今回の地震や大津波により、亡くなられた方、行方不明の方は2万人を超すといわれ、今なお多くの人達が避難生活を余儀なくされています。

今回の大地震で犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を表明しますと共に、救援の手が更に差し伸べられますよう切に願うところです。

それにしても今回の大災害では、改めて大自然の猛

威を思い知らされました。これまで営々として築き上げてきた人々の営みは何であったのか。しかも今回の地震では、最先端の技術を集結し、安全性を隈なく検証したはずの原子力発電所でも大事故が発生いたしました。

今回の震災によって、当市もこれまでの災害対策を根本から見直さなくてはならない事態に直面しました。東海、東南海、南海の3連動地震が予想される中、被災地の皆さんへの復興支援と共に、当市の備えを更に着実に進めていかななくてはならないと思うところです。

市の防災計画の見直し

東北関東大震災を受け、市は防災計画の見直しに着手することになりました。

■予知なし地震への対応

緊急地震通報などの予知情報の活用の見直し。



↑防災無線

■津波への対応

浅羽海岸の堤防は6~7m、これまで堤防高を超える大津波は想定されて来ていない。



↑浅羽海岸

■原発への対応

10kmが避難域とされてきたが、今回の原発事故では30kmまで拡大、当市もこの圏内に入る。



↑浜岡原発からの距離

市の災害支援を追う

市は今回の大震災では、消防庁の出動要請に基づき、直ちに救急消防支援隊を現地に派遣しました。編成隊は1隊5~6人、5日間交代で派遣を続けています。この他に注目されるのは、市独自の支援体制です。

震災翌日、市はシビックホースの要請で直ちに災害が大きかった気仙沼市などに向かい、バルーンシェルター4基、非常用テント40張、毛布100枚、アルファ米1000食、航空機用燃料800ℓなどを送っています。シビックホースは、大規模災害時に被災地を支援する目的で活動している公益社団法人で、市とは支援物資の保管、災害訓練などで協力関係を持っています。



3/14には、五街道どまん中防災協力宣言に基づき、栃木県大田原市にブルーシート300枚を送っています。この救援は、平成10年の「どまんなかサミット」時に取り交わした宣言に基き送ったものです。

また、当市の防災体制の視察を通して関係のあった宮城県岩沼市には、要請に基づき簡易トイレ10基、ガスボンベ10本、コンロ20台などを送っています。大規模災害では、支援体制も直ぐには整わないことが分かりましたが、自治体相互の協定に基づく独自の「対口(たいこう)支援」という形も今後重要になってくるかもしれません。

←3/15に市庁舎に設置された「袋井市東北関東大震災復旧支援本部」

地域資源の掘り起こしについて

質問 可睡斎の護国塔建設100年展や農地整理の祖・名倉太郎馬の顕彰などの事業が市民の手で行われているが、市の評価は、また支援をどのように考えているか。

回答 郷土の歴史遺産や自然遺産を大切に市民活動は、本市の文化レベルを向上させる有意義な取組みであり、活動が円滑に行われるよう積極的に支援して行きたい。

また市内には、重要文化財や史跡などへの看板81基が設置されているが、近年老朽化しているものもあり、順次、修繕や更新をして行きたい。

県の指定文化財にもなっている可睡斎の護国塔は、日露戦争の戦死者を祀るため明治44年日置禅師により建立されたもので、今年で竣工100年を迎える。古代ガンダーラの様式を取り入れた護国塔は、日本で初めて「建築」という概念を打ち立てた伊東忠太博士が設計したもので、築地本願寺や震災記念館など、氏の幾つかの代表的な建物の先駆けとなっている。氏の建築デザインは、氏独自の建築史

観から導き出されたもので、その特異な形状は今なお多くの人を魅了している。また、建物の構造設計には、わが国の耐震設計の最初を築いた佐野利器博士が手掛けている。記念事業を行う「伊東忠太・可睡斎護国塔百年展」実行委員会では、11月の可睡斎での展示会をはじめ各種行事を予定している。

事務局：電話0538-43-7770 鈴木



↑可睡斎の護国塔

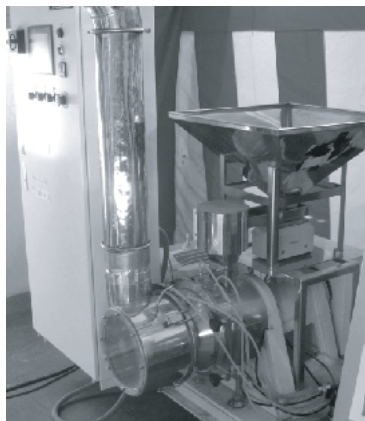


↑3/12可睡斎で開催された倉方俊輔准教授による講演

農の6次産業化と米粉の活用について

質問 本市には豊かな水田が広がっているが、近年、農商工の連携により、食味も良く加工に適した米粉の活用が広がっている。食糧自給率の向上や地産地消の観点から、学校給食に米粉を使用したパンの採用を検討したらどうか。

回答 米粉パンは全国的に採用の動きもある。市内には米粉パンの製造の研究を熱心に取り組んでいる業者や農家があり、供給体制や価格、品質などの課題がクリアできれば、本市独自で試験的に採用する方法も考えたい。



↑活用が広がる米粉製品

←高品質の米粉に加工する製粉機

情報発信の方法について工夫が必要では

質問 電子媒体の普及が進んでいる中、市のホームページは市のPRや訴求力が弱く、改良の必要を感じるがどのように考えているか。

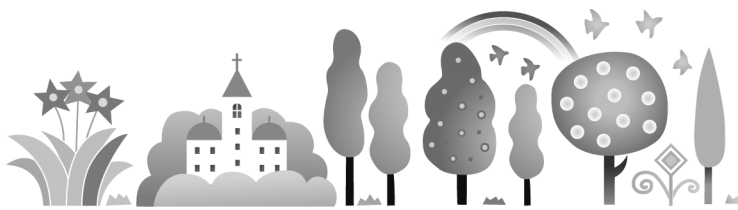
回答 ホームページは、ご覧になる高齢者や障害者の方にも見やすくすることを基本としており、昨年度98万件のアクセスがあり一定の成果があった。今後、更に時代に対応した効果的な画面構成や画面展開など改善を進めて行きたい。



↑市のホームページ

☺みんなの力で住み良いまちをつくろう

まちがどウオッチング



「風見の丘」施設オープン

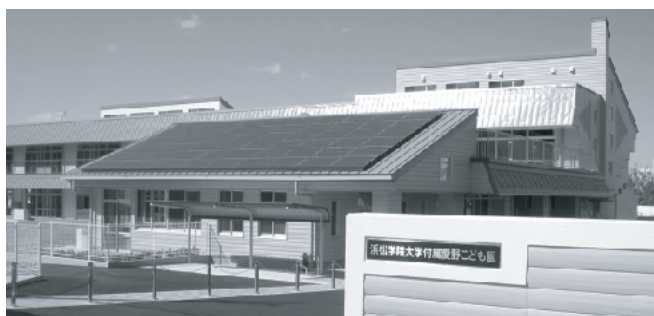
市内岡崎にあるごみ焼却施設、中遠クリーンセンターの横に建設が進められていた「風見の丘」が4月供用開始の運びとなりました。この施設は、市民の健康増進を図る目的で建設されたもので、センターから出る焼却熱を利用した温水プールなどが設備されています。プールは、25m×6コースの水泳用、20m×2コースの歩行用、子供プール1つで、その他、トレーニング室、フィットネス室、休憩室などがあります。



↑開館を待つ健康増進施設「風見の丘」

「愛野こども園」開園

JR愛野駅の南側に建設されていた「浜松学院大学付属愛野こども園」の園舎が完成し、今年度より園児を受け入れることになりました。「愛野こども園」は、浜松市に本社をおく学校法人興誠学園が運営する認定こども園で、幼稚園、保育所の園児160人を受け入れることができます。認可幼稚園と認可保育所が一体となった幼保連携のタイプで、当市でも初めての運営方式としても注目されています。



↑開園した幼保連携の「愛野こども園」

多文化共生フォーラムの開催

市内には、平成20年度には4000人余の外国人が住んでいましたが、現在は約3500人の外国人の方が住んでいます。少なくともとはいえ、市人口の4%にあたり、外国人との共生は避けて通れぬ日常となっています。市は2/27北公民館にて「多文化共生フォーラム」を開催し、地域の抱える課題を話し合いました。取り組みの先進事例として磐田市南御厨地区、菊川市平川地区の事例が紹介されました。



↑菊川市「ひらかわ会館」の事例を紹介する橋本哲夫事務長



↑耕地整理起発点の道路標識と展示会（1月）

耕地整理の祖・名倉太郎馬

日本で最初に耕地整理を行った名倉太郎馬の没後100年を記念する行事が進められています。名倉太郎馬は彦島にて、農道の整備や蟹田川の流路変更など農地の改良を行い、また新しい稲作技術を導入して貧しかった農民の救済に力を注ぎました。氏の事業は、今でも市東部に広がる真っ直ぐな農道や、整然と並んだ農地に見ることが出来ます。記念事業実行委員会では、記念碑建立のための募金活動も行っています。

問合せは、電話42-3446名倉または42-2485村田まで

紙芝居で伝える東南海地震

昭和19年の東南海地震では、当市は143人という多くの犠牲者を出しました。中でも現西小小学校では、20人の生徒が校舎の下敷きになって亡くなりました。「西小地震語り部の会」では、当時の体験を伝え、地震対策に役立ててもらおうと紙芝居による活動を続けています。紙芝居は、「東南海地震8歳の記憶」を出版された市川和子さんの絵で、子供達にも分かりやすく臨場感迫るものになっています。

3台あり貸出し可、ご希望の方は、電話42-3468木野まで



↑協働のまちづくりでの発表風景（3/17）